

令和4年度日本大学理工学部における教育活動に関する 外部評価実施報告について

理工学部内部質保証推進委員会
理工学部自己点検・評価委員会

1 実施目的

卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者の受け入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)の3つのポリシー及びこれらに対する取組の適切性・妥当性等に対する外部評価を行い、本学部における教育活動のPDCAサイクルを確立し、教育の質保証及び向上に資することを目的とする。

2 外部評価者

- 委員長 岸井 隆幸 (日本大学名誉教授)
委員 三澤 史子 (船橋市教育委員会生涯学習部長)
委員 並木 浩 (日本信号株式会社執行役員 (総務部・人事部担当))
委員 中島 佑実 (横浜市立戸塚高等学校教諭)

3 外部評価項目及び方法

① 評価項目

- (1) 教育課程・学習成果 (ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー)
- (2) 学生の受け入れ (アドミッション・ポリシー)

② 評価方法

- (1) 外部評価者は、本学部で実施した自己点検・評価結果に基づき評価を行う。
- (2) 評価を行うに当たり、外部評価者と本学部で意見交換及び質疑応答を行う場として協議会を開催する。
- (3) 外部評価者は、評価の結果、優れている点や改善を必要とする点等を評価結果としてまとめるとともに、外部評価項目の取組評価を4段階で評価する。
(A：十分出来ている、B：概ね出来ている、C：一部改善が必要、D：出来ていない)

4 外部評価実施スケジュール

- | | |
|------------|-------------------------------|
| 令和4年4月 | 外部評価実施方法を決定 |
| 令和4年5月～11月 | 外部評価者の人選 |
| 令和4年12月 | 外部評価者へ本学部の概要説明 |
| 令和5年1月 | 本学部にて自己点検・評価を実施 |
| 令和5年2月 | 外部評価者へ本学部の自己点検・評価結果をまとめた資料を送付 |
| 令和5年3月6日 | 本学部駿河台校舎にて協議会開催 (キャンパス視察等含む) |
| 令和5年3月中旬 | 外部評価者から評価結果提出 |

5 外部評価協議会の議事録及び外部評価結果について

別紙「外部評価協議会議事録」及び「外部評価結果」のとおり。

以 上

令和4年度日本大学理工学部における教育活動に関する
外部評価協議会議事録（要旨）

1 開催日時 令和5年3月6日（月）午後5時10分～午後6時40分
※午後4時～午後5時 駿河台校舎施設見学を実施。（希望者のみ）

2 開催場所 駿河台校舎10号館特別会議室

3 出席者

【外部評価者】

委員長 岸井 隆幸（日本大学名誉教授）

委員 三澤 史子（船橋市教育委員会生涯学習部長）

委員 並木 浩（日本信号株式会社執行役員（総務部・人事部担当））

委員 中島 佑実（横浜市立戸塚高等学校教諭）

【本学部】

青木 義男（理工学部長，内部質保証推進委員会委員長）

木村 元昭（理工学部（駿河台校舎）次長）

轟 朝幸（理工学部（船橋校舎）次長）

橋本 修（学務委員会委員長）

山田 高三（入学試験実行委員会委員長）

大沢 昌玄（自己点検・評価委員会委員長）

松原 麻美（教務課長）

牧野 宏司（庶務課長）

矢葺 未来（庶務課主任）

4 内容

青木理工学部長より，外部評価を行うことに至った背景や意見をいただきたい観点等を説明した後，松原教務課長から本学部が作成した自己点検・評価報告書（公益財団法人大学基準協会が定める大学基準の「基準4 教育課程・学習成果」，「基準5 学生の受け入れ」）について説明を行った。

（説明に対する外部評価者からの主な質疑応答及び意見）

説明後，外部評価者から質疑があり，その後基準4・5に対する意見を聴取した。なお，施設見学を踏まえ学生の教育環境に対する意見もあった（学生ファーストで教育環境として素晴らしい）。

【質疑応答】

質問：ディプロマ・ポリシーや履修体系などしっかりと示され明記されているのは良いが，形骸化しないか確認を行っているのか。

回答：FD活動や学生への授業評価アンケートから確認している。

質問：教員側による教育評価だけではなく，学生による授業評価アンケートを行っており，教育活動の改善に向けた仕組みが整備されているが，その改善の妥当性の検証はどのように行っているか。

回答：授業科目単位で何を修得できるかという視点で行っている。

質問：成績に関する質疑を教員へ行う場合，原則，学生本人が直接教員へ問い合わせ

を行う仕組みとなっているが、他大学では第三者を経由する仕組みを行っているケースもあると聞く。客観性の観点から考えると、第三者が入ったほうが良いように思うがいかがか。

回答：成績に関する質疑を第三者が入って対応することはかなりの件数になるため、実際にそのように対応する場合は、新たな組織の設置、問い合わせの内容を分ける等検討する必要がある。

質問：外部アセスメント・テストを導入するとあるが、何を測るのか。

回答：日本大学教育憲章で示している汎用的能力等を測る。

質問：オンラインを効果的に利用した教育とはどういったものか。

回答：コロナ禍での授業実施の経験からオンラインによる授業効果と課題について有用な知見を得ることができた。現在は、「対面型授業」を主体とした授業運用となっているが、反転授業等にオンラインを利用する場合がある。また、オンラインを活用することにより、離れたキャンパスに設置された授業（他学部との相互履修等）の履修が容易になると思われる。

質問：校友子女選抜とは何か。また、障がい等がある受験者への配慮はどのように行っているのか。

回答：校友子女選抜は、特別選抜方式であり、本学部への入学を第1希望とする者で、校友の子女（法定血族を含む2親等内直系血族）であるもの等が出願資格の要件となっている。障がい等がある受験者に対しては、当該受験者と本学部関係者で受験時の配慮だけでなく、入学後の支援も想定した事前面談を実施している。

質問：10の基準がある中で今回、「基準4 教育課程・学習成果」、「基準5 学生の受け入れ」を外部評価の対象とした理由はどういったものか。

回答：今回の外部評価は、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者の受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）の3つのポリシー及びこれらに対する取組の適切性・妥当性等を評価いただくことを目的としているため、基準4及び基準5を対象とした。また、公益財団法人大学基準協会による大学認証評価追評価の受審結果において、一層の改善が期待される事項として指摘され、改善取組中である内容が基準4の中にあり、この点についても御意見をいただきたく基準4を含めた。それ以外の基準については次回以降、御意見をいただくことを予定している。

【意見】

- ①履修方法はシステム化されており、入学から卒業まで体系的に学修できる仕組みとなっている。一方で、システム化されすぎると面白みが無くなるとの懸念もある。
- ②自己点検・評価報告書の記述において、大学関係者以外には一般的ではない用語が一部使用されているため、わかりづらいので注釈をつける等、改善が必要である。
- ③大学設置基準等で定めている基準について遵守することは当然という前提で、自己点検・評価報告書を作成するだけでなく、同報告書を活用して他大学等と比較して「日本大学理工学部」の強みを社会へ発信することが今後望まれる。

本学部から、本協議会でいただいた御意見及び外部評価者の皆様から御提出いただいた評価結果を踏まえ、今後本学部の教育活動の向上・改善に向けて取り組んでいくことを申し上げ、閉会となった。

以 上

令和4年度日本大学工学部における
教育活動に関する外部評価の評価結果

外部評価者 岸井隆幸・三澤史子・並木浩・中島佑実

[基準4] 教育課程・学習成果

【点検・評価項目】

- ① 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。
- ② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。
- ③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
- ④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。
- ⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。
- ⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。
- ⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①評価できる点（伸長すべき点、取組が効果を上げている事項など）

- ・「学位授与方針（DP）」及び「教育課程の編成・実施方針（CP）」は、「日本大学教育憲章」に掲げられた教育理念のもと、構造化されており、各学科の教育課程は体系的に編成されている。学科ごとに「履修系統図」が明示されることにより、入学から卒業まで体系的に学修できる仕組みとなっており、適切であることを確認した。
- ・各学科における卒業到達度評価科目による学修成果の把握・評価に加えて、令和5年度からは、「自ら考える」力などの汎用的能力等を測定する外部アセスメントテストの導入が予定されている。併せてアセスメントポリシーを策定することで、大学・学部の教育理念に則った人材の育成が、より確実に行われるものと期待される。
- ・学生の学習活性化に関しては、入学時の学力調査をはじめ様々な学修支援に取り組んでおり評価できる。
- ・就学環境が、充実・整備されている。
- ・対面授業やオンライン授業等、学生が学びやすく、また多面的に学ぶための取り組みを、世の中の情勢に合わせ的確に行っていると感じた。
- ・学生自らが考え活動する機会を提供している「未来博士工房」はユニークな取り組みであり、高く評価することができる。

②問題点・今後の課題（改善すべき点、強化が望まれる事項など）

- ・授業評価アンケートの活用に関しては、教員側及び学生側双方より授業評価をすることが望まれる。
- ・各プロセス・仕組みを形骸化させない工夫が継続的に必要。本外部評価協議会制度は有効であると考えられる。
- ・学生にとって有益な取り組みが多いが、在学生や受験生（高校生）等に伝わっていない事が多い。より効果的に周知できる方法を実行していく必要があると感じた。
- ・ユニークな取り組みである「未来博士工房」については、理工学系学際領域の重要性に鑑みて、さらに学科を超えた領域を目指して発展することが望まれる。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント		ABCD 評価(※)
	・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	A
	・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	A
	・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。	A
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な事項については、適切に記載されている。 ・一部に、用語の不統一や、大学関係者以外には一般的ではない用語の使用が見られたため、用語の説明・注釈などがあると理解しやすいと感じた。 	

※ A：十分出来ている，B：概ね出来ている，C：一部改善が必要，D：出来ていない

[基準5] 学生の受け入れ

【点検・評価項目】

- ① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。
- ② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。
- ③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
- ④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

①評価できる点（伸長すべき点，取組が効果を上げている事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・学生の受け入れに関しての点検・評価項目は、体系的であり且つ公平・適切であることを確認した。 ・大学基準協会大学認証評価にて指摘されている単位数上限緩和措置に関しては、令和6年度入学者から適用を目指していることも確認した。 ・多様な学生を受け入れるための工夫がなされていると感じた。 ・障がい等がある受験者に対し、学部関係者が、受験時の配慮だけでなく、入学後の支援も想定した事前面談を実施するなど、合理的な配慮を適切に行っている。 ・学部のホームページにおいて、女子学生を対象に理工系学部進学の特長を掲げた記事（「女子こそサイエンス」）を掲載するなど、女子学生の教育支援や女性人材の育成に積極的な学部の姿勢がうかがえる。

②問題点・今後の課題（改善すべき点，強化が望まれる事項など）
<ul style="list-style-type: none"> ・各プロセス・仕組みを形骸化させない工夫が継続的に必要。本外部評価協議会制度は有効であると考えている。

③報告書の記載内容に対する評価，コメント		ABCD 評価(※)
	・点検・評価項目ごとに現状を記載しているか。その内容は具体的か。	A
	・記述内容は適格かつ簡潔に記載されているか。冗長な文章となっていないか。	A
	・誤字や脱字，わかりにくい表現はないか。	A
コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な事項については、適切に記載されている。 	

※ A：十分出来ている，B：概ね出来ている，C：一部改善が必要，D：出来ていない